

ウーマン・イン・スポーツ

各紙掲載記事より

93年6月～9月

●93年6/20(読売) イスラムの少女は水着では泳げません。ズイス連邦裁判所(最高裁)は宗教上の理由から水泳の授業を拒否したチューリッヒ在住の十一歳のトルコ人少女の訴えを認める判決を下した。少女は両親とともに敬虔なイスラム教徒で、異性の前で水着を着用するのは教えに背くと主張していた。

●7/21(報知) 女子アスリートは赤パンツに衣替え。陸上の世界選手権での日本女子選手団のユニフォームが、従来の白いランニングパンツから赤いパンツに変わった。五輪や世界選手権など国際試合での日本代表の白いパンツが廃止になるのは初めてのこと。

選手への願いが実現し、「下着が透けることも気にせず」「もう生理の多い日も安心」。これで好成績につながればと関係者は期待を寄せている。

●8/7(読売) 体協初の女性トップに高原会長正式決定。四月から空席が続いていた日本体育協会の第十二代会長に高原須美子氏(60)が正式に決定。高原氏は平成三年に体協八十年の歴史で初の女性役員(監事)に、そして今回は、初の女性会長就任となった。

(WSFジャパンでは、一九八九年七月七日に体協とJOCへ「女性役員登用に關する要望書」を提出、各方面に働きかけを行ってきた。四年目にして体協に初の女性会長誕生という大きな成果を挙げた。■編集部)

●8/16(産経夕刊) 浅利一世界の頂点に立つ。シュツットガルトで行われた第四回世界陸上の女子マラソンで日本の浅利純子(ダイハツ)が2時間30分3秒で初優勝。二十三歳の世界チャンピオンは五輪、世界選手権の女子マラソン最年少記録。安部友恵(旭化成)は三位、松野明美(ニコニコドー)は十一位であった。

●8/19(報知) 松野明美、社長になる。世界選手権女子マラソンで十一位に終わった松野明美(25)が、所属のニコニコドーが傘下の企業として発足させる広報宣伝を中心とした別会社の社長に抜擢される事が明らかになった。同社では、全国的に社の名前を広めた功績を高く評価し、ニコニコドーの顔として松野を起用する方針を固めた。

●8/20(産経) マラソン・スイミングで松崎裕子さん(31)が世界15位

にランク。海や川、湖を長距離泳ぎ、タイムを競うマラソンスイミングは現在、世界に八十人ほどのプロ選手がいる。その中で唯一の日本人である松崎さんは、昨年六月にプロに転向してから男女を通じて十五位、女子では七位と大活躍。

●9/1(読売) 卓球協会に初の女性事務局長誕生。卓球の72、74年の全日本女子チャンピオンで世界選手権代表にもなった横田幸子さん(41)が九月一日付で勲日本卓球協会の要職、事務局長に就任した。体協加盟の競技団体では日本アイスホッケー連盟の指方(さしかた) 幸子さんに次ぎ二人目。

●9/6(産経) 女性12人で世界一周六万キロの航海。英国サザンプトンをスタートする世界一周の外洋ヨットレース「第六回ウィットブレッド」に日本の松永香さん(29)が女性ばかり十二人のUSウイメンズチャレンジャー(米国、乗組員は六カ国)の一人に選ばれて世界一周外洋ヨットレースの初挑戦に臨んでいる。

●9/17(日経夕刊) 高校女子駅伝選手に月経異常の割合高い。日本体力医学会で梶原洋子文教大教授(運動生

理学)は「高校女子の長距離ランナーは、大学や実業団選手と比べて無月経や骨折などの発生率が高い」と発表。「月経異常は記録向上のための無理な減量や激しいトレーニングに起因する」としており、今後の選手指導への警鐘となりそうだ。

●9/20(朝日) 女子サッカーが五輪種目に決定。国際オリンピック委員会(IOC)は、アトランタ五輪での実施種目に女子サッカーを新たに加えることを正式に決めた。八月末現在、日本協会には選手一万九千三百二十二人、千五十四チームが登録。今回の決定が普及を更に進めることが予想される。

●9/27(朝日) 伊達、世界十二位。女子テニス協会(WTA)は26日、世界ランキングを発表。ニチレイ国際レディースで準優勝した伊達公子が十三位から十二位に上がり、コンピューターによる現行システムとなって以来の日本選手最高位を更新した。年間賞金ランキングでも、伊達は男女を通じて日本人初の二十万ドルラインを突破する二十二万九千三百二十六ドルで二十一位。